

6月11～12日にかけての株式市場の急反落について

ポイント① 株式市場が急反落

6月11～12日にかけて主要国の株式市場は急反落しました。日経平均株価は6月11～12日(午前10時頃)の2日間で5%ほど下落しており、6月11日のNYダウは7%ほど下落しました。

日経平均株価は年初から年初来安値の3月19日にかけて7,104円下落しましたが、その後、6月8日にかけて6,625円を回復、実に下げ幅の93%を取り戻しました。NYダウは年初から年初来安値の3月23日にかけて9,947米ドル下落しましたが、その後、6月8日にかけて8,981米ドルを回復、こちらも下げ幅の90%を取り戻していました。

ポイント② きっかけはFOMC

今回の急反落のきっかけは、6月9、10日に開催されたFOMC(米連邦公開市場委員会)での声明のようです。声明では、新型コロナウイルスの感染拡大が経済活動、物価、雇用にとって大きなリスクとなっているとし、景気に慎重な見方を示しました。予想の範囲内でしたが、これまで相場を押し上げてきた早期の景気回復期待が一旦後退したようです。

ポイント③ 相場の過熱解消には必須の調整

上述したように、株式市場はFOMC直前の6月8日にかけて大幅に回復しており、RSI※などの代表的テクニカル指標にはかなりの過熱感がありました。日米株式市場のRSI※は「買われ過ぎゾーン」とされる70%を超えるまで上昇しており、相場の調整は必須の状況だったと考えています。但し、今回のスピード調整で過熱感はある程度解消されており、このまま下落が継続することは考えにくいと思われます。経済活動再開は一步一步進んでおり、あくまで「一時的な調整局面」であると考えています。

図1：年初来の日本株式市場の推移

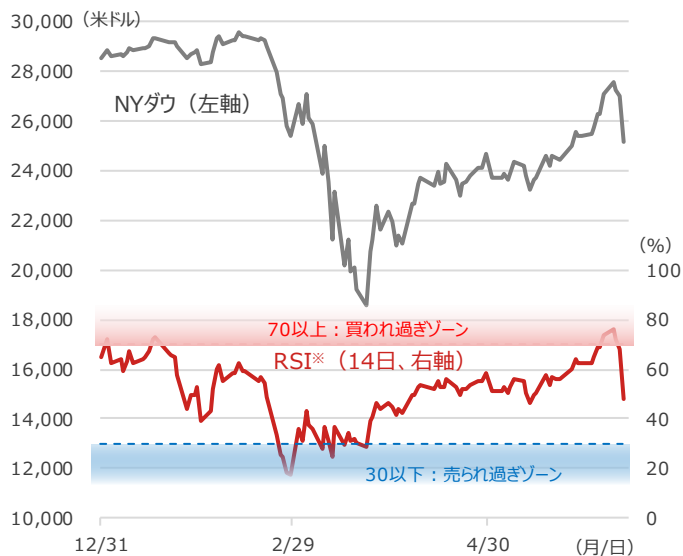
期間：2019年12月30日～2020年6月12日、日次

※6月12日は午前10時ごろの株価



図2：年初来の米国株式市場の推移

期間：2019年12月31日～2020年6月11日、日次



※ RSI (相対力指数)：代表的なテクニカル指標。相場が上昇、下落のどちらの勢いが強いかを計測する。70%以上であれば買われすぎ、逆に30%以下であれば売られ過ぎと判断される。

(出所) Bloombergより野村アセットマネジメント作成

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様ご自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書(交付目論見書)の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。